

<2021年11月14日(日)の医療部長ピーター・ホワイト少佐のメッセージ>

妻と私がイギリスとヨーロッパを旅行していたとき、古い教会の建物や大聖堂を訪れるのが大好きでした。大聖堂の建物には畏敬の念を起こさせるものがあります。これらの建物は、神の素晴らしさを思い出させるように設計されています。大聖堂に足を踏み入れると、建物は目を上の方に向けさせます。建物全体があなたの礼拝の体験を向上させるように設計されているのです。旧約聖書に出て来るエルサレムに建てられた神殿も同じでした。その大きさと構造はすべて、その場所が神の住む場所であることを人々に思い出させるように設計されていました。神殿はユダヤ人にとって礼拝共同体の非常に重要な位置を占めていました。それは教えを受け、学ぶ場所であり、共同体が集まり祝う場所であり、神を礼拝し交わりをする場所だったのです。

今週の聖書箇所はイースターの直前の受難週のもので、おそらく、棕櫚の聖日の直後の週の初めの出来事でしょう。イエスは十字架上の犠牲の死に向かって進みながら、自分の死と復活の後に何が起こるかについて弟子たちに教えています。5節以降でイエスは弟子たちに明確な指示を与えています。私たちは常にイエスに焦点を合わせ続ける必要があります。イエスは、オリーブ山で一緒に座っている弟子たちに、来るべき時について思い起こさせようとしてしました。弟子たちはエルサレムの神殿の素晴らしさを眺めながら、この壮大な建物がどうして破壊されることなどあるだろうか、と考えていたことでしょう。その週の終わりまでに、彼らの先生（ラビ）であるイエスが十字架に付けられ、犯罪者として処刑されることを彼らが知っていたら、どうしたでしょう。イエスは、世の終わりの出来事を「誕生の痛みの始まり」に似ていると説明しています。世の終わりに到来する新しいエルサレムは、いつの日か新しい子どもの誕生と同じような仕方で生まれます。子どもの誕生と同じように、新しいエルサレムの誕生は苦しく困難な出産となります。そのためには、準備が非常に重要です。イエスが戻って来るとき、私たちは準備ができていなければならない必要があります。私たちが行うすべてのことにおいて、私たちは神に忠実に仕え続ける必要があります。私たちが礼拝と交わりを分かち合うとき、また、奉仕を離れるときに、日曜日の経験を忘れないようにする必要があります。7節と8節には、戦争のうわさを耳にしたときに、心配してはいけない、と明確に述べられており、非常に興味深いものです。イエスは弟子たちに、これらはすべて、イエスが栄光のうちに再び戻る前に起こる必要のある出来事である、と告げています。これに加えて、自然災害もあります。これらすべての兆候は今起きていると言えるでしょうか？ そうだと思います。私たちは心配する必要があるでしょうか？ もし準備ができていなら、心配する必要はありません。私たちは毎日の周りの出来事に気を散らすのではなく、常に敬虔なことに焦点を合わせていきましょう。私たちの人間性は、私たちが周りの災害と混乱に集中させようとするでしょう。しかしイエスは、これらのことを超えて、私たちがイエスの輝かしい帰還に焦点を合わせるようにと勧めているのです。